

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 49 号

発行日
2025.04. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「思索(十愛煙?)」の場としての、我がペランダ!

改めて、過日、新しい年度が始まった。最近、繰り返して同じことを述べていると思うが、世間の「年度替わり」は、ほとんど感慨も湧かない!就労者や学生達には大変申し訳ないが、私には、変わらぬ日常が過ぎていくだけである!そんな中、戯言と言われればそれまでであるが、生活者ではある高齢者の節目感受として、ここでは、今の自分のスタートであった、我がペランダのことを振り返っておきたい。

というのも、この「新通信」も含めて、そこでの思索(十愛煙?)さらには来訪者達が、この間の私を癒し、不本意退職?後の我が人生を救ってくれたのである!尤も、近年の私は、遠望の東シナ海(湾)やその手前の街並みには、ほとんど想いを寄せることもなく、移り行く季節を、淡々と見遣っているとも言える(慣れてしまったということである?)!ある時期は、季節の野菜をプランター栽培していたのでもあるが、それも、今はやっていない!壁の内側の一角に、鉢植えの草花があるが、枯れないように水をあげるだけである!

ただし、それも含めて、そうしたことが出来るのも、ただただ、ある人のお陰である!偶に、嫌みの一つも言われることもあるが、それは事実なので仕方がない!日中は、ほとんど2階と1階の住み分けというところで、程よい関係となっていると思うが(手前勝手)、衣食住全ての面で、その人の世話になっているのである(いわゆる「居候状態」?笑!)

自称「しががない文筆家」としては、こうするしかないのであるが、今日も、パソコンとのにらめっこが続いている!久しぶりの穏やかな天候である!海に向こうの水平線が、薄青の空と紺青の海を隔てている!まさに春なのである!

○「普通」再考?、「一律」は平等か?

さて、かねてより、私は、「普通(の)上等」の意義を唱えてきた。そこで、昨今の、教育における「無償化」の動き(高校の授業料、給食費等、もちろん、これだけではないが!)に関わって、そのことの意味を再考してみたいのである。物価高騰等の諸般の事情があつて、様々な生活支援が必要だということは分かるが、そこに導入される「一律」という考え方に、かなり異論があるのである。もちろん、「無償化」とか、「社会的救済」とか、そういう、言わば「正義(公正さ)」が悪いということではない。それは、必要な形で、実行されるべきものである!

だが、疑問は、「何故一律?」ということである!社会的公正(「平等」)を担保するという大義があるように見えるが、実際は、困窮度とか、得られる実質的な救済内容を考えなければ、ほとんどその甲斐はない(単なるバラマキ?税金の無駄遣い?)!!「福祉国家」という理念があるが、それは、社会的な不平等を「公共(税金)」によって、可能な限り解消していくことでもある!現実(資本主義・自由主義社会)特に経済・生活面)は、どうしても「上部と下部」をつくり出してしまつからである!

まさに「格差」の問題(それを無視あるいは放置、さらには増大させる現実がある!その差は無限に広がる!)というところであるが、そこに目を向けなければ、むしろ仇となる?そこに「無償化」の意義があるのであるが、それが一律であれば、その「格差」の是正にはならない!消費税もそうであるが、ある意味平等とは、社会の「普通」の質と量を上げることが目指すスタンスでもある!!

○「学校と家庭の共依存」!そこから如何に脱出すべきか?
ところで、先月(3/26)の地元紙に、「学校と家庭が『共依存』、「保護者と相互理解必要」というヘッドラインで、興味ある記事が載っていた(焦点/争点(3月))。普段は、あまり真面目な購読者ではないが、読んでみると、いろんなことを考えさせられた。何でも、「卒業、入学と年度の変わり目は子どもたちの将来が気になる時期だ。論壇の各誌では教育や学びに関する論者が目立った。」とある。

まず、最初の記事『世界』4月号)であるが、そこでのキーワードが、「学校依存社会」とあつた。ある大学教員の論考であるが、「教員の長時間労働がはびこる背景には、過剰な業務負担によって社会全体の安定が保たれる状況がある!学校依存社会」として、その問題の解消は急務だが、それだけでは問題は解決しない」とあつた。ある事例を下に、その「共依存」の実態が示された後、「教員がこれをやめたとき、母親に負担が移るだけになりかねない!教員と保護者は相手のことをほほ何もしらないとして、まずは『お互いを知るところから始めよう』と訴えた」ともあつた。全くの同感であるが、次の、日本の子ども達の「自己肯定感」についての記事『Voice』4月号)では、「日本の子どもに『正しい肯定』を」と題する論考を挙げ(一般に日本の子ども達は、自己肯定感が低いとされている)、褒めるときは何が良かったかを具体的に示し、結果よりそこに至るまでの過程を評価する。肝に銘じておきたい助言だ。」ともある。

これまた全くの同感であるが、興味深かつたのが、「教育こそ最高の経済対策」(文芸春秋)4月号。実業家や大学人6人による提言で、ある提言「米国のGAFAM経営者らは学びを楽しみつつ課題を見つけ、事業を立ち上げた」と強調する」として、「技術の発展は低コストで豊かな生活を皆にもたらさう。経済合理性が重要ではなくなったとき、人を動かすのは『パッション』、自発的な探求心であり、その時は教育の意味も大きく変わる」とある。誰が書いた論評かは分からないが、セットの記事には、末尾に執筆者の名前があつたので、彼かもしれない(社会部D氏)!!これからも、「社会の木鐸」として頑張つて欲しい!(井上)

○「考え(続け)ること」の意味！それは何のため？

○危うし？民主主義国家(群)のバロメーター!!

先号で、井上氏(妙々笑)は、松岡正剛さんの『日本文化の核心』(講談社現代新書、2020年)から抜粋・編集されたネット記事を紹介した。そこでは直接触れられていなかったが、「世阿弥は、『まねび』を稽古することをもって『まねび』に近づいていく(古きを考ふる。古きは『もとも』のピエンス)の生活(生存)理念となっている、基本的人権の意(こ)を『まねび』とした」ということである。「日本では、武芸に限らず多くの分野で『道』という文字が使われます。『職人芸』や『匠の技』が強調される背景には、日々の活動の中で『守破離モデル』が無意識に回り、自己実現への思いが貫かれている」というのである！

ところで、先月、かの『御上先生』(テレビドラマ)が終わった！大いなる反響を呼んだようであるが、その最大なもの、まさに「自分の頭で考えること」の意味(重要性)であった！ただし、やはりエンタメではあったので(最後は痛快であった)多くの視聴者は、不正が暴かれることにスカッとしたことであろう。私自身は、かなり複雑な思いであった!! 要は、子ども達(この場合は高校生)が、目の前の現うなると、ホモサピエンスの危機ともなる!! 実に目を背けることなしに、自分の頭で「考え(悩み)続ける」ことの大切さが強調されたわけであるが、ただそれだけのメッセージ性でよいのか? ということである。

眼前の不正、否、あらゆる社会問題への問いかけを含ませることは、大いに歓迎され得るが、彼らが今、「何のために」「考え(悩み)続ける」必要があるのか? 主人公は、「結論を出さず考える場所に立ち続ける勇氣を持つ」と言ったが、それは、当然子ども達のためであろうが、そこには、やはりそのロールモデル(その時々の課題目標がないと、教育論にはならない?)つまり、そこには通過すべき、幾つかの学習ステップがあるということである! 最近、こうした自分の頭で考えることが推奨されているが(教えない教育)、だがそれは、あくまでも方法論であって目的論ではない! そのプロセスが、意味や価値を創り出す方法ということである(思考と行動の協奏)!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕(4)〜

〇二からは、九州での隠れた事績を追うーその4ー ということで、改めて、「多氏」のことを追及する必要があるわけであるが、その前に、神八井耳命(多氏の祖)のことを整理しておく必要がある。うーただし、その神(氏族)は、真に厄介な神(氏族)である! 言うのもその神(氏族)は、「東征」後の神武の、近畿大和での長子とされるが、その母親は、次子の「神沼河耳命(多氏の祖)の弟(孫)の命」と共に、出雲神「事代主神」と「三嶋瀧敷耳命」の娘の「玉櫛媛」との間に生まれた「媛姫(五十鈴媛)命」との間の子であるからである(なお「東征」に同行した、日向? の先妻の子もいる! 多研耳命、多命等。

ここでは、そうした事情や、彼らの皇位継承の経緯については割愛するが、その神八井耳命(多氏の祖)の子とされる「健甕龍(多命)命」が、何故阿蘇に下向したのかである(ちなみに、彼らは、信州戸隠方面にも進出している)。しかるに、神武東征以降、人や文物の「西への移動」は確実であったようである。その証拠の一つが、日田の「小迫(津原遺跡)で、そこには、当時の近畿や出雲の土器等が数多く検出されているらしい。だから、それが、この多氏の九州進出と関係があるのなら、そのことを、改めて考察してみよう必要があるのである(玉備で発生し、近畿(近江)大同団結した「前方後方墳(手塚石上墓)」の西への移動、否、回帰? ーその痕跡の一つが、例の「吉野ヶ里遺跡」に残されていることは、前にも述べた通りである!

であれば、直接には「玉備」から出立した「多氏勢力」(淀川水系)と「物部氏(健甕龍)勢力(大和川水系)こちらは、「前後田墳(勢力)」が途中から袂を分かち、その主導権争いに負けた多氏勢力が、東西に散らばっていたと捉えれば、神話のストーリーとも合致する! だが、神八井耳命(多氏)にして、神沼河耳命(物部氏)にして、彼ら(の部族・勢力)は、神武九州開拓・勢力(物部氏)と出雲(の一部勢力)と和漢族(との婚姻(同盟)関係で生まれた御子とされているわけであり、彼らの部族・勢力が、最初の大和玉権(三輪山麓)の中核であったことは、ほぼ間違いないであろう! 「大和・柳本古墳群(地域及び「葛城地域」)!! (つづく) (堂本) (編集後記) 明後日、満73歳! これからは、後期高齢者へとつき進んでいく! どんな日々が待ち受けているのか? 取り敢えずは、今まで通り! やれることを、やっていくしかない! ちなみに、運転免許の更新は終わった! (井上)堂本

- ・「一律」は平等か? 先にある「普通」の意味? 上辺だけであれば 仇となる!!
- ・「共依存」 弊害説くだけでは 十分でなし!! そのあり方を 具体で示せ!
- ・「考えること」! ただそれだけではあれば哲学者? 要は「何のために」 そうするかである!
- ・民主主義国家のバロメーター!! 幾つもあるが 今やすべて危うし?